

丹波市立図書館協議会委員と丹波市教育委員の意見交換会 会議録（要旨）

◇日時：令和7年9月25日（木）

◇開会：午前11時00分

◇閉会：正午

◇会場：丹波市立中央図書館 視聴覚室

◇出席者：（教育長） 片山 則昭

（教育長職務代理者） 吉竹 主税

（教育委員） 上羽 裕樹 中川 卯衣 瀧上 智帆

（図書館協議会会長） 畑田 久祐

（図書館協議会委員） 葛木 伸一郎 橋本 千英 由良 ゆかり

伏田 雅子 上山 未登利

◇事務局：（教育部長） 山本 浩史

（教育総務課） 足立 安司 足立 真澄

（学校教育課） 小森 真一

（社会教育・文化財課） 吉住 健吾 近藤 利明 高見 弘子

嶋崎 美紀 塚田 千晴

◇欠席者：（図書館協議会委員） 中澤 利恵 中岡 恵美 井上 直志 増田 博

図書館協議会会長（以下、会長）

・丹波市全体でみると図書館を利用しているのは市民の数%程度なので、もっと市民に来てもらうためにどうすればよいか考える必要がある。

・本日は、次の3点について意見交換をしたい。

[①公共図書館と学校図書館の連携]

[②学校司書の配置]

[③生涯学習の拠点としての公共図書館の役割]

[①公共図書館と学校図書館の連携]

[②学校司書の配置]

図書館協議会委員

・文部科学省で学校図書館と公共図書館の有識者会議があり、学校図書館の役割が重要な議題になっている。

・一部の学校では学校図書館で学校司書が本だけでなくタブレットの使い方も指導している。

・学校の現場や子どもたちの声を聞く機会があるが、現状では、図書館を常時開けることは難しく、使える時間に限りがあるので学校司書を配置することが大切。

- ・以前、学校図書館についてアンケートをとったが、小学校の8割は、学校司書が必要と回答。一方、中学校の5割以上は、学校司書を配置すべきかわからないと回答。学校司書が置かれると学校がどのように変わるのかを先生が知る必要がある。

会長

- ・子どもたちが調べる楽しさや本との出会いを味わえるのが学校図書館だが、そういった機会がないことに危機感がある。学校図書館と公共図書館が連携することが大事。
- ・例えば、学校へ公共図書館の職員が出向いて、調べ学習の仕方を教えると子どもたちも先生と違った指導に興味を持つと思う。
- ・公共図書館には蔵書もたくさんあるので、イベントを共同開催するなど、色々考えられる。
- ・教育委員の中でどのような議論が行われているのか。

図書館協議会委員

- ・現状、図書館管理システムが学校図書館にはない。
- ・図書館管理システムが一元化され、公共図書館から学校図書館の本の動きが見られるようになると、公共図書館が子どもたちの読書状況を知ることができる。
- ・今後、システム連携が必要。

教育委員（教育長職務代理者）

- ・教育課程上、学校で図書の時間はどのようになっているのか。

教育部長

- ・国語の授業で図書の時間を設けているが、学年が上がるにつれて図書の時間は減っていく。小学2年生までは、週に1時間は図書の時間を設けている。

教育委員（教育長職務代理者）

- ・授業としての図書の時間は、図書室へ行って自分で本を探す時間だと思う。本が好きな子はその時間を楽しみにするが、本が好きではない子はそうではない。
- ・基本的に、本を読む楽しさ、本で調べる力は大事だと思う。書物で調べる過程で、知りたいこと以外のことも学習できる。
- ・連携について、何を指して連携するのか疑問に思った。それぞれの図書館が、子どもがどうなるために連携するのか、目標を決めたうえで、どのような連携ができるか考えていく必要があるのではないか。
- ・現状、公共図書館と連携するのに学校として窓口があるのか。「公共図書館と学校

図書館の連携」と「学校司書の配置」は関係している。公共図書館の職員が学校を訪問し、教えていただくのは有効だと思う。

- ・学校図書館の蔵書数、新刊図書の設置状況はどうか。

教育部長

- ・学校図書館の利用状況は、ほぼ昼休みだけ。放課後の時間が自由に使えるわけではなく、休み時間はほとんどが開けていない。
- ・総合的な調べ学習で学校図書館を使っていることは多々ある。自由進度学習のやり方を取り入れている学校もあり、先生に聞くだけでなく、自分で調べる学習の手法は増えている。
- ・各学校に図書館担当の職員がいるので、現状はそこが窓口となる。

教育総務課長

- ・図書購入の予算は、各学校の均等割と児童数に応じて配当し、できるだけ充足率を満たすようにしている。

教育委員（教育長職務代理者）

- ・学校の図書担当者と公共図書館の協議会や話し合いなど、学校図書館の課題を話し合う場はこれまでなかったのか。

会長

- ・図書館協議会に学校教育関係者として代表校長が出席している。

社会教育・文化財課 図書館係長

- ・学校教育課が進めている学校図書館の環境整備事業の協議には、学校から要望があれば図書館職員が出席している。
- ・各図書館の職員は、団体貸出の作業の中で、図書担当教諭から学年ごと、クラスごとに必要とされている本を聞く機会がある。

図書館協議会委員

- ・3年前から学校図書館サポーターをしているが、それまでから全く連携がなかったわけではない。学校側から団体貸出を依頼、また図書館から貸出を呼びかける連携はしていた。
- ・調べ学習については、学校図書館にも本は揃っているが、ない本を地域の図書館へ依頼して貸出してもらうことはある。
- ・学校の担当教員と各図書館を連携するための人員が1人は必要。

- ・団体貸出だけでなく、図書館の持っているノウハウを担当教員へ伝える必要がある。
- ・今の学校には、本で調べたり、実際に図書館へ行く余裕はない。知識を与えるだけでなく、子どもたちと一緒に学んでいくことが大切だと思うが、その体制があるのか。
- ・公共図書館担当者から学校図書館の必要性を発信していく必要がある。
- ・選書の時から、先生にどの授業でどの本が必要か意識してもらうことが大事。
- ・昨年から、教育委員会で、図書の構造改革や予算改革を行っているが、その取組を学校に伝えたり、学校から要望をあげたりする連携が取りにくい。もっと学校側から課題や学習の方針を伝えなければいけない。
- ・学校図書館の担当教員の専門性や読書に対する意識を高めなければいけない。サポーターも手助けできるが、限界がある。やはり学校図書館司書の配置が必要。
- ・先生は担任のクラスの仕事があるので、図書室へ行く時間がない。代わりにサポーターが図書室を開けることもあるが、開いていたら子どもは来る。子どもたちの思いに応えるには学校司書の配置が大事。
- ・学校司書の配置が難しいことはわかっているので、せめて代わりに図書館サポーターや地域のサポーターが図書室に来て、子どもの相談にのれるようにすべき。
- ・公共図書館担当者の思いを聞いてもらえるところがもっとあれば良いと思う。

会長

- ・学校司書がいることで子どもたちと本の距離が近くなり、図書館司書の観点が加わることで先生の指導により豊かな学びが生まれるのではないか。
- ・教育委員の会議の中で、学校司書配置について議論いただくことをお願いしたい。

[③生涯学習の拠点としての公共図書館の役割について]

会長

- ・丹波市立図書館条例施行規則では、丹波市の図書館は静かに本を読む場所と決まっている。しかし、図書館が生涯学習の拠点となるためには、声を出すことができ、人と人が関わってつながる場所ではなくてはいけない。
- ・多くの市民に利用してもらいたいという思いがあるが、従来の図書館のイメージでは人が来てくれない。例えば、子育て中の人立ち寄り、本を通じてホッとできる、高齢の方が立ち寄り、昔の写真を見て昔話ができる、図書館にはそんな役割があると思う。
- ・生涯学習の拠点としての図書館のあり方の1つとして、市民にとって「図書館に聞けばいいやん！」と思えるような役割を、図書館が担うことができれば良いと思う。かつて公民館には生活の困り事の相談を受ける役割があったが、今は失われている。生涯学習の拠点として、図書館が市民の役に立てるのではないか。

図書館協議会委員

- ・図書館は、従来のアカデミックな印象から、時代の変化に合わせ、楽しい場所やゆったりできる場所という印象に変わってきていると思う。それぞれの利用者に合わせた自由度の高い教育の場にしていきたい。

図書館協議会委員

- ・「丹波市図書館ビジョン」には、市民協働による図書館運営が掲げられている。
「みんなのとしよぶ」は、市民が主体となって活動をしている。
- ・図書館が、本を読むだけではない目的で立ち寄ってもらえるようになると良いと思う。例えば、レファレンスサービスは、司書に相談したらたくさん資料を提供してくれる。市民も市職員も図書館を活用して、その便利さや価値を体験してほしい。
- ・「みんなのとしよぶ」の活動として、今年、冬場にこたつを置いて、みんなでゴロゴロしながら本を読んだりボードゲームをする予定がある。
- ・ちょっとした企画に市民が関わっていくことで、図書館の自由度も上がるし、図書館に対する関心も高まるのではないかと考えている。
- ・分館は住民センターの中にあるが、住民センターは、公民館としての機能もある。図書館が中心となって、市民が活動の場を持ちたいと思った時に後押しができれば良いと思う。
- ・職員数は限られているので、生涯学習の拠点や居場所としての図書館を作っていく上でコーディネートに長けた人を配置する等、協議が必要になる。
- ・丹波市の図書館は6館体制であり、色々な可能性を秘めていると感じている。新しい取組を行わなければならないという課題はあるので、計画の中で検討している。

教育長

- ・先日、「丹波市図書館基本計画」の策定に向けた基調講演会と意見交換会があり、講演された吉成信夫さん（元「みんなの森ぎふメディアコスモス」総合プロデューサー）も「図書館は人と人がつながる場所であるべきだ」と言われていた。
- ・私が市内の小中学校を訪れたときに、こどもたちにどんな学校が楽しいか聞くと、図書室に関しては、「寝っ転がって本が読めるところだと楽しい」「ソファやお菓子が欲しい」と答えていた。
- ・学校司書については、もちろん専門的な知識は大事だが、資格で仕事をするのではなく、やる気のある人がいることが大事だと思う。
- ・教育委員会では、今年から学校図書館に力をいれるように予算を組んでおり、方向性としては間違っていない。学校司書であってもサポーターであっても、根気よく続けていくしかないと思う。

- ・図書館を、人と人がつながる場所にするための取組を行っていかなければならない。今あるものをいかに上手に使ってくかが大事だと思う。

会長

- ・教育振興基本計画に「親しみを感じる図書館づくり」と記載してある。将来的に庁舎移転の話も出てくると思うが、新たな施設を考える時に、生涯学習の拠点としての公共図書館の役割について議論する必要がある。将来できることを市民に示していくべきである。
- ・学校司書についても、現状を把握しながら、最終的な理想を積み上げていってほしい。

教育長

- ・丹波市立図書館は中央図書館が中心であるが、新しい図書館をつくるという話が全くないわけではない。丹波市は面積が広いので、5つの分館があることにも意味がある。公共図書館を生涯学習の拠点とすることを前向きに検討したい。

図書館協議会委員

- ・丹波市各地域に本のあるスペースが増えている。市民レベルでもちたん文庫やライブラリーカフェなど、本をコンテンツとして人が集まれる場所ができている。こういった施設と図書館が連携できていないと思うので、拠点となる図書館から、もっと本を外に出してほしい。
- ・すべての市民が図書館に足を運べるわけではない。特に、こどもは自分だけで公共図書館へ行けないので、学校図書館や地域で本が置いてある場所は大事だと思う。

図書館協議会委員

- ・公共図書館と学校図書館のシステムが一元化されていないのが現状。学校で公共図書館の本を借りることができれば、公共図書館もシステムから、こどもに人気のある本を把握できる。連携できれば、様々な役割を持つ図書館に近づくとと思う。

教育長

- ・移動図書館や、ショッピングセンターに本の返却ボックスを設置するなど、市民にとって便利になるように、内部で協議はしている。気軽に図書館を利用できる仕組みを構築することが課題である。

会長

- ・中央図書館は、書架が高く、非常に高いところまで本が並んでいる。協議会で、書架を低くするために本を除くべきという意見が出ているが、閉架書庫が狭く、除い

た本を保管する場所がない。空いている公共施設に本を置く意見も出ている。教育委員会全体で、本の置き場所を議論してほしい。

図書館協議会委員

- ・ こども連れにとっては、公共図書館は静かにしなければならず気兼ねをするので、小学校の図書室を地域に開いてくれたら行きやすい。
- ・ 地域の図書館サポーターと図書館職員と一緒に図書を選定してはどうか。

会長

- ・ 図書館運営に関わる規則も変えていかなければならない。今回の懇談会で申し上げた、図書館運営に関する課題を教育委員に知っていただけたらうれしい。今後とも議論をよろしくお願いしたい。

以 上